

## 平野 Happy Smile Corporation

## 生きる算数の授業



## 未来そうそう科の学習テーマ

新教科「未来そうそう科」を推進するにあたって、3つの学習テーマを設定しました。①主に自分に関する内容、②主に集団や人間関係に関する内容、③主に広く社会や環境にアプローチする内容の3点で、そのテーマの視点を（表1）に示しました。

表1 学習テーマの視点

学習テーマ	主な内容
主に自分に関する内容	「希望に満ち溢れた未来」の中で生きていく自分自身の将来の姿を「想像」する中で、そのイメージを実現するためには、自分がどのように生きていくことが望ましいのかについて、 <u>キャリア教育の視点をふまえてアプローチ</u> をすることができる学習展開を行う。
主に集団や人間関係に関する内容	多様な集団との関わりの中で、人の気持ちを「想像」し、人との関わりを深めることが「希望に満ち溢れた未来」へとつながるということを意識することができることを目指して、人間関係形成へのアプローチとなる学習展開を行う。
主に広く社会や環境にアプローチする内容	「地球環境」や「社会」について「自分事」ととらえて、それらに対して自分なりにできることを「想像」し、「希望に満ち溢れた未来」の「創造」に向けて、 <u>ESDの視点をふまえてアプローチ</u> をすることができる学習展開を行う。

## 未来そうそう科 主に自分に関する内容 3年【私たちの地域の未来をそうそうしよう 平野EXPO】 ～平野の町の未来予想図～

3年生では、未来の平野を創造するために、平野区の特徴や良さを活かした「平野EXPO」の開催を目指す活動を1年間通して実施しています。平野の歴史チームや平野のゆるキャラなどテーマごとに分かれ外部の方や異学年に自分たちの考えているパビリオンについてプレゼンテーションを行う場面を多く設定しました。また未来ノートを活用して「どのような姿でプレゼンをしていると良いのだろうか。」「大成功だったプレゼンはどのような姿なんだろう。」という未来の姿を想像してから、活動に入りました。活動後には、「聞いている人が自分たちのプレゼンをしっかり聞いてくれていました。」や「プレゼンで説明したことについてたくさんアドバイスをもらえました。」といった、未来の自分たちの感想を想像しながら未来ノートに書いていました。これらの活動を基に、予想通り行かなかったことや、うまくいったことなどを踏まえ、次の活動に向けて新たな課題を見つけしていきます。このような活動の繰り返し、自分自身の探究活動となり成長を促していきます。加えて今後必要とされるプレゼンテーション能力を備えた人として成長し、自分のキャリアの中で生かされるものと考えます。



## 未来そうそう科 主に集団や人間関係に関する内容 主に広く社会や環境にアプローチする内容 5年【平野Happy Smile Corporation】

平野Happy Smile Corporationとして会社を立ち上げ、今の自分の身の回りを見渡した時の人間関係・環境に問題・課題をそれぞれがを見つけ、それにアプローチ、よりよいものになるように働きかけをしていきました。子どもたちの1～4年生の経験からおおきく対象を「人」と「生きもの・自然」に分類し、クラスを解体し「お助け課」と「生き物課」にわかれ活動に取り組みました。また、それぞれの課の中でも自分たちの問題意識によってさらに細分化（生き物課の中でも農業係・花係・整備係・レポート係など）をし、全体で協働し、よりよい状態をめざしました。「お助け課」では身近な人たち（学年の友だち、学校の仲間、地域の人たちなど）を中心に、その人たちの生活がよりよいものになるよう休み時間の運動場の使い方を提案したり、地域でのゴミをなくすよう啓発をしたりしました。「生き物課」では、校内にある里山の環境を、草花を植えたり、野菜・米を育てたりすることを通してよりよいものにできるよう考え、活動をすすめました。子どもたちにとって、対象はさまざまではあるが、自分たちの活動次第で物事をより良いものに変えることができるということを感じさせ、今後の未来そうそう科及び日常生活において、子どもたちが主体性・協働性・創造性をもって活動していく態度面を育むことができました。



# Open Café(オープンカフェ)の取り組み

「Open Café(オープンカフェ)」とは、本校の教員が講師となり、新任教員や経験年数の少ない教員、または、教員を目指す学生を対象にした公開授業を行い、授業後には、授業づくりや先生の指導の在り方などについてレクチャーする取り組みです。公開授業では、本校の教員がその専門性を発揮し、本校独自の教育観を「平野の知恵袋Ⅳ」(書籍)を基本とした平野スタイルの国語科・算数科の授業を公開しました。



Open Caféに参加した新任教員や経験年数の少ない教員、学生など立場の異なる参加者の満足度が高く、この講習会からそれぞれが学びを得ることができたことからOpen Caféによる地域貢献の役割において一定の成果を出すことができました。また授業者も「学び合い」「ICT」「板書」「発問」といった平野スタイルの視点を持ちながら公開授業・講習会に取り組んでいくことで一貫性及び系統性のある指導法を参加者に提供できました。



## 各教科・領域における「未来そうぞう」

本年度より、各教科・領域において「未来そうぞう」を主題とし、新教科「未来そうぞう科」との関連をはかりながら、「各教科・領域における『未来そうぞう』」として研究開発を進めています。



## 3つの実践力と各教科における力

新教科「未来そうぞう科」においては、育成すべき資質・能力として「主体的実践力」「協働的実践力」「創造的実践力」の3つを挙げています。その中で各教科・領域においても育ていける資質や能力を9つに細分化しました。それが下の図です。



算数科においては、未来そうそう科の「主に社会や環境にアプローチする内容」との関連を図ったものとして、単元での学習の活用・汎用をねらいとした「折れ線グラフ」の学習を設定しました。折れ線グラフには、軸の目盛りの取り方や、グラフ用紙の工夫から、より変化を大きく見せたり、小さく見せたりするのが出来るというよさがあります。このよさを活かして、自分のデータをグラフに表す活動を単元の終末に取り入れました。この学習では、根拠をもって折れ線グラフを作成することが必要になり、算数科としての確かな理解へとつながります。さらに未来そうそう科の学習において、みんなで調べたことを表現する手段としての活用・汎用につながることを期待されます。



社会科では、研究テーマを『価値判断・意思決定力を育成する社会科教育～過去・現在の社会的事象に学び、未来をそうそうする子どもたちの育成～』として、研究に取り組んでいます。

子どもたち自身が社会的事象に対して価値判断・意思決定する場面を意図的に組み込むことで、自分で調べて考えたり、他者と対話したりする活動がより活発に行われるようになるのではないかと考えました。また、その中で培われた価値判断・意思決定力が、未来を「そうそう」する時に有効に働くものと考えています。

校内での研究授業で、6年生では「首相にするならだれ!？」というテーマで、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康について学習したことをもとに、今の首相にするならだれにするかを価値判断する学習を行いました。子どもたちは前時までに、単元の中で学習してきたことを再度整理し、新たな情報を調べて考えていました。またその際、現在起こっている問題を含む、日本や世界の各分野に関するニュースについて、新聞記事をもとに作成した資料を子どもたちに提示しました。それをベースに日本を取り巻く世界の現状についても価値判断し、「未来の社会がこうなるように、〇〇を選ぶ」というように、価値判断・意思決定をするようにしました。

授業を通して、「日本の首相を選ぶ」ために積極的に知識の整理をし、現在起こっている問題などと引き合わせて考え、友だちと対話する様子が見られました。また、友だちが調べて考えた上で価値判断したことを聞いて、ワークシートにまとめ、自ら自分の考えと結び付けたり、比較したりして、再度、価値判断・意思決定し直す姿が見られました。

